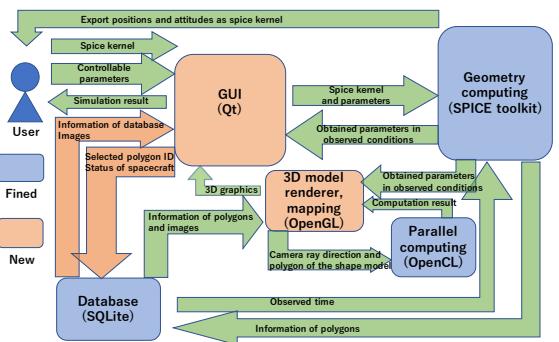


HARMONICS説明

49th LPSC #1857準拠

◆ HARMONICS (HAYABUSA Remote MONitoring and Commanding System)

- SPICE Toolkitを用いた、はやぶさ／はやぶさ2向け可視化ツール
 - 搭載観測機器の視野(FOV)と視線(LOS)の表示
 - 探査機と小惑星の三次元位置関係の表示
 - 小惑星表面の撮影画像範囲をカバレージDBを用いて表示
 - 探査機の位置と姿勢を読み込んだ値から変更した時の視野の模擬
- 使用場面（右図はシステム内の流れを示したもの）
 - 観測前の軌道・姿勢予測値を読み込む場合
撮像済み範囲を確認しながら観測計画を立案する
 - 軌道・姿勢確定値を読み込む場合
観測時照明条件などを確認しながらデータを解析する、など
- 開発履歴
 - HARMONICS 1.0 [1] はGUIライブラリ GTKで実装された。
 - Ueno+(2017) [2]において、GTKからQtに換装され、機能強化が図られた。
 - Aoki_(2018) [3]において、GUIベースの検索機能が追加された。



Web site
<https://arcspace.jp>

開発環境

OpenGL 4.5	OpenCL 2.2
Cfitsio 3.4	Ccfits 2.4
Qt 5.8.0	OpenCV 3.2.0
C++	SQLite 3.21.0
SPICE toolkit N0066	

HARMONICS と SBMT の比較

- (Small Body Mapping Tool by APL)
- HARMONICSの特徴
 - 観測機器視野視線および探査機の空間位置の可視化
 - 読み込みデータの改変が可能
 - SBMTの特徴
 - 観測画像のマッピング
 - 解析機能(計測とマーキング)
 - 観測範囲の表示の違い
 - HARMONICS: ポリゴン表示
 - SBMT: オブジェクト表示

References

- Nemoto+(2005) 36th LPSC #2050
- Ueno+(2017) Transactions of the Japan Society for Aeronautical and Space Sciences 60(3) pp.132 – 136 DOI: 10.2322/tjsass.60.132
- Aoki+(2018) 49th LPSC #1857

